

【】 鎌倉幕府の成立

[源頼朝の挙兵]

[解答 1]源頼朝

[解説]

みなもとのよりとも
源頼朝は、1180年に^{きよへい}挙兵した後、鎌倉
(神奈川県)を^{ほんきよち}本拠地にして^{しき}指揮をとった。
鎌倉は東・北・西の三方を山で囲まれ、南

は^{きがみわん}相模湾に面した天然の^{ようがい}要害である。東・

北・西のいずれから鎌倉に入るとしても
「鎌倉七口」と呼ばれる、山を切り開いた
狭い通路(切通し)を通らねばならなかった。このように、鎌倉は山と海に囲
まれているので守りやすい土地であった。

※この単元で出題頻度が高いのは「源頼朝」「鎌倉(地図)」である。

[源頼朝の挙兵]

1180年に挙兵

鎌倉を本拠地にした
山と海に囲まれているので
守りやすかったから

(源頼朝)



[解答 2](1) 源頼朝 (2)① 鎌倉 ② A ③ 神奈川県

[解答 3]山と海に囲まれているので守りやすかったから。

[壇ノ浦の戦い]

[解答 4]壇ノ浦

[解説]

源頼朝は鎌倉にいて、弟の^{みなもとのよしつね}源義経らを
^{はけん}派遣した。義経は^{いちのたに}一ノ谷の戦い、^{やしま}屋島の戦
いで平家を破り、1185年、壇ノ浦(山口県)
の戦いで平氏を滅亡させた。



[源平の争乱]

1180年 源頼朝の挙兵

1185年 壇ノ浦の戦い

源義経が平氏を滅ぼす

(平家の人々は御(1185)難の壇ノ浦)

※この単元で出題頻度が高いのは「壇ノ浦(地図)」「源義経」である。

[解答 5]① 源頼朝 ② 源義経 ③ 壇ノ浦

[解答 6](1) 源義経 (2)① 壇ノ浦 ② E ③ 山口県

[鎌倉幕府の始まり]

[解答 7]① 守護 ② 地頭

[解説]

みなもとのよりとも
源頼朝の巨大化を恐れた後白河上皇は、頼朝
と義経が不仲になったことにつけこみ、義経の
願いを受けて頼朝^{ついで}追討を命じた。

[鎌倉幕府]の始まり

1185年 国ごとに守護
荘園や公領ごとに地頭 → 鎌倉幕府

1192年 源頼朝が征夷大將軍

これに対して頼朝は軍を京都に送って後白河上皇にせまり、義経をとらえることを名目に、守護と地頭を任命する権利を認めさせた。守護は国ごとに置かれ、国の中の軍事・警察や御家人の統率を行った。地頭は荘園や公領の管理、年貢の取りたて、警察にあたった。

こうして頼朝は、本格的な武士の政権である鎌倉幕府を開いた。これ以降、1333年に滅亡するまでの約150年間を鎌倉時代という。

義経は平泉を根拠地^{ひらいずみ}にしていた奥州藤原氏^{こうしゅうとうげんじ}をたよって逃れた。頼朝は義経をかくまったことを理由に、奥州藤原氏を攻めほろぼし、独立性の強かった東北地方も支配下においた。

1192年、源頼朝は朝廷より征夷大將軍^{せいゐたいしやうぐん}に任じられた。(いい国(1192)めざす)。(かつては、源頼朝が征夷大將軍に任命された1192年を鎌倉幕府の成立としていたが、現在では、守護・地頭の任命権^{かくとく}を獲得した1185年を鎌倉幕府成立の時期とする説が有力になっている。)

※この単元で特に出題頻度が高いのは「守護」「地頭」である。「鎌倉幕府」「征夷大將軍」もよく出題される。

[解答 8]① 守護 ② 地頭 ③ 鎌倉 ④ 征夷大將軍

[解答 9](1) 源頼朝 (2)① 国ごと ② 荘園や公領ごと (3) 鎌倉 (4) 鎌倉時代 (5) 1192 (6) 奥州藤原氏

[御恩と奉公]

[解答 10]① 御恩 ② 奉公

[解説]

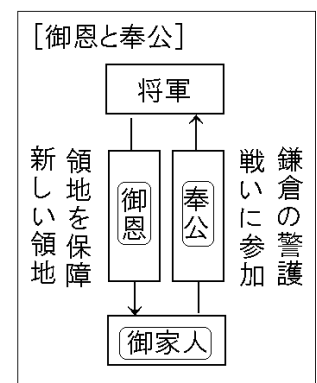
將軍と御家人は御恩と奉公の関係で結ばれていた。

御恩の中で一番重要なのは、家来となった武士(御家人)の土地支配を保障^{ほしょう}したことであった。源頼朝^{みなもとのよりとも}は御家人に対し、おもに地頭に任命することによって、先祖伝来の領地の支配を保証した。国司や近隣諸勢力との争いに絶えず悩まされていた武士にとって、「一所懸命」(生活を支える領地(一所)を、命を懸けて守る)という言葉がしばしば用いられたほど大切だった領地の支配権を認めてもらうことは、何物にもかえがたい御恩であった。

このような御恩に対し、御家人は、平時には、京都や鎌倉の警護^{けいご}にあたる義務を負い、戦時には、命をかけて鎌倉殿(源頼朝)のために戦った。これが、奉公^{ほうこう}である。さらに、鎌倉殿のために、命をかけて戦っててがらをたてたときには、没収した敵の領地を恩賞^{おんしょう}として与えられたが、これも御恩の1つである。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「御恩」「奉公」「御家人」である。

※現在なら、土地を暴力で占拠されたときは警察に訴えることができるし、隣の家との境界線争いが生じたときは、民事裁判で決着をつけることができる。しかし、武士が発生した平安時代後期はそうはいかなかった。



武力で土地をうばわれても国司などの役人が救ってくれるわけでもなく、また裁判に訴えることもできなかつたからである。(国司は年貢を多く徴収して私腹をこやすことには熱心でも、警察・裁判など本来はたすべき職務にはほとんど無関心であった。) 鎌倉殿(源頼朝)の御家人となることによって、土地をうばわれそうになったときは、鎌倉殿の指揮のもと、御家人が結束して敵を撃退してくれるし、また御家人同士の土地争いが生じたときは鎌倉殿が公平に裁いてくれた。

しかし、それだけではまだ十分ではなかつた。平安時代、自分で開発した土地であっても、国司からの税の取り立てをまぬかれるために土地を貴族や寺社に寄進し、自分は土地を管理する荘官という私的な管理人という形式をとっており、法的には土地の所有者ではなかつたからである。

1185年に、源頼朝は、朝廷にせまって守護・地頭を任命する権限を得て、御家人をそれぞれの土地の地頭に任命した。この地頭職は、公的にも権限を得た鎌倉殿(源頼朝)によって任命された公職であったから、御家人たちは、はじめて国家公認の土地所有者になることができたのである。これが、御家人の鎌倉殿への忠誠を絶対のものにしたのである。

[解答 11](1) 御家人 (2)a 御恩 b 奉公

[解答 12](1) 源頼朝 (2) 御家人 (3)① 御恩 ② 奉公

[解答 13]御恩：御家人の以前からの領地を保護し、手がらに依じて新しい領地をあたえること。 奉公：将軍に忠誠をちかい、合戦に出て戦ったり、京都や鎌倉の警備に出たりすること。

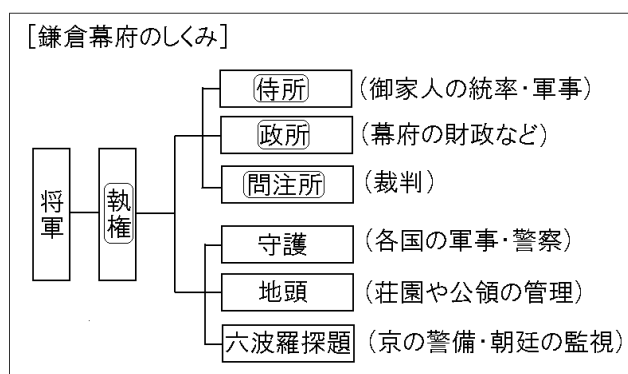
[鎌倉幕府のしくみ]

[解答 14]執権

[解説]

鎌倉幕府の組織は、御家人をまとめ軍事をあつかう侍所、一般政務や財政をあつかう政所、裁判を行う問注所からなっていた。また、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置いた。執権は将軍を助けて政治をおこなう最高職であるが、これが設けられたのは源頼朝の死後で、北条氏が独占した。また、六波羅探題は、1221年に起こった承久の乱の後に、朝廷を監視するために設置された。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「執権」である。「侍所」「政所」「問注所」「六波羅探題」もよく出題される。



[解答 15]A 執権 B 侍所 C 政所 D 問注所

[解答 16]① 執権 ② 侍所 ③ 政所 ④ 問注所 ⑤ 守護 ⑥ 地頭

[全般]

[解答 17](1)① 壇ノ浦 ② E ③ 源義経 (2)① 守護 ② 地頭 (3) 征夷大將軍

(4)a 御恩 b 奉公 c 御家人 (5)① 侍所 ② 問注所 ③ 政所

【】 執権政治

[執権政治]

[解答 18]① 北条 ② 執権

[解説]

1199 年に源頼朝が死んだ後、第 2 代將軍の源頼家と御家人や、御家人どうしの争いが起こり、やがて幕府の実権は有力な御家人をまとめた北条時政(頼朝の妻北条政子の父)がにぎった。以後、北条氏は將軍の力を弱めて執権の地位を独占して幕府の実権をにぎった。これを執権政治という。

[執権政治]

源頼朝の死後、実権は北条氏
→ 執権の地位を独占

※この単元で特に出題頻度が高いのは「執権」である。「北条氏」もよく出題される。

[解答 19](1) 北条時政 (2) 執権政治

[解答 20]執権の地位を独占して幕府の実権をにぎった。

[承久の乱]

[解答 21](1) 後鳥羽上皇 (2) 承久の乱

[解説]

武士の勢力が全国各地でのびていくにつれて、朝廷や貴族の反感は強まった。ことに貴族の経済的基礎である荘園が地頭によっておかさされつつあったことは、危機感をいっそう増大させた。

源頼朝の死後、幕府の実権は北条氏に移り、有力な御家人の争い

が続いた。第 3 代將軍の源実朝が殺害される事件が起きると、幕府の動揺を好機とみた後鳥羽上皇は、1221 年に、第 2 代執権の北条義時追討の命令を出し、幕府を倒そうと兵をあげた。これが承久の乱である。(人に二色(1221)承久の乱)(北条義時は初代執権北条時政の次男で、北条政子の弟である。)

[承久の乱]

1221年 後鳥羽上皇

↓
北条政子の説得

この時代を「鎌倉時代」といっているが、実質的には朝廷と幕府の二大勢力が共存しており、天皇・上皇の朝廷の精神的な権威はいぜんとして大きかった。この知らせを聞いた御家人たちは、朝廷方と戦えば「朝敵」となるのではないかと動揺した。

このような御家人を前に、源頼朝の未亡人である北条政子が、「みなの方、よく聞きなさい。

これが最後の言葉です。頼朝公が 朝廷の敵(平氏)をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海よりも深いものでした。…名誉を大事にする者は、京都(朝廷)に向かって出陣し、逆臣をうち取り幕府を守りなさい。」と説得した。政子は次のようにも言っている。「侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生の大事と思い、一族、郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときは、はだしでやっと帰ってきた。それを頼朝殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、皆よろこんだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方へつくか、將軍に奉公するか、今はっきり言い切ってみなさい。」これで流れは変わった。御家人たちは、以前の悲惨な境遇を思い出し、団結して朝廷に刃向かうことを決心したのである。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「承久の乱」「後鳥羽上皇」である。「北条政子」もよく出題される。

[解答 22]① 北条 ② 後鳥羽 ③ 承久の乱 ④ 北条政子

[解答 23](1)① 承久の乱 ② 北条政子 (2) 頼朝(源頼朝) (3) 夫と妻 (4) 平氏
(5) 後鳥羽上皇 (6) 北条義時 (7) 1221年

[承久の乱の結果]

[解答 24]六波羅探題

[解説]

承久の乱で、幕府は大軍を率いて上皇方を破り、後鳥羽上皇は隠岐(島根県)に流された。乱後、幕府は、朝廷を監視するために、京都に六波羅探題という役所を置いた。また、上皇方についての貴族や西日本の武士の領地を取り上げ、地頭に東国の御家人を任命した。これによって、幕府の支配力は全国的に広がっていちだんと強まった。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「六波羅探題」「朝廷を監視するため」である。「幕府の支配が西日本にも広がった」の出題頻度も高い。

[承久の乱の後]

後鳥羽上皇→隠岐

六波羅探題：朝廷の監視

幕府の支配が西日本にも広がった



[解答 25]① 後鳥羽 ② 六波羅探題 ③ 朝廷

[解答 26]朝廷を監視するため。

[解答 27](1)① 六波羅探題 ② 朝廷 (2)① 隠岐 ② F (3) ア (4) イ

[解答 28]鎌倉幕府の支配力は全国的に広がった。

【御成敗式目】

【解答 29】御成敗式目

【解説】

この当時の法律としては、朝廷の律令などがあつたが、ほとんど空文化していた。武家社会においては、武士がそれまで育んできた慣習や道徳を重んじ、紛争を処理する規範としてきた。しかし、当時道理と呼ばれた慣習や道徳は、地域によって異なったり、相互に矛盾したりする場合もあった。また、承久の乱の後、地頭の勢力が強くなり荘園への支配権を拡大していったため、荘園領主との間で争いがさらに激しくなったが、このような場合、慣習や道徳だけで裁くことが困難であった。このような状況に対処し、公平な裁判制度を確立する目的もあって、1232年、執権の北条泰時は、裁判の基準として御成敗式目(貞永式目)をつくった。(御成敗式目、一文(ひとふみ)に(1232)) 御成敗式目の中で注目すべきは、「武士が20年の間、実際に土地を支配しているならば、その権利を認める」ことを定めた条文で、これによって、武士の土地所有権が法的にも保証された。

【御成敗式目】

1232年

北条泰時が制定

※この単元で特に出題頻度が高いのは「御成敗式目」「北条泰時」である。

【解答 30】① 北条泰時 ② 御成敗式目(貞永式目)

【解答 31】(1) 御成敗式目(貞永式目) (2) 北条泰時 (3) あらかじめ裁判の基準を定めて、公平に裁判できるように

【全般】

【解答 32】(1)① 北条氏 ② 執権 (2) 承久 (3) 後鳥羽上皇 (4) 北条政子

(5)① 六波羅探題 ② 朝廷を監視するため。 (6)① 御成敗式目(貞永式目) ② 北条泰時

【】 武士と民衆の生活

【地頭の支配】

【解答 33】下地中分

【解説】

農民は年貢を荘園や公領の領主におさめていたが、地頭になった武士が土地や農民を勝手に支配することが多く、地頭と領主の間には、争いがたびたび起こった。この争いは幕府によって裁かれ、土地の半分が地頭にあり、半分が農民にあり、地頭が一定の額の年貢をうけ負って、領主におさめるようになっていった。こうして、土地に対する地頭の権利は、しだいに領主と同じように強いものになっていった。農民は荘園領主と地頭の二重支配に苦しんだが、農業生産の向上等によって力をつけた農民は、村を中心に団結を強め、こうした支配にも集団で対抗するようになった。

【地頭の支配】

地頭の力増大→下地中分

農民：地頭と荘園領主の二重支配

※この単元でときどき出題されるのは「下地中分」である。

[解答 34]ウ

[解答 35]イ

[武士の生活]

[解答 36]弓馬の道(武士(もののふ)の道)

[解説]

武士は荘園や公領に堀と塀をめぐらせた館を構えて生活し、土地の開発を進め、下人や農民を使って農業を営んでいた。

武士は常に馬や弓矢の武芸によって心身をきたえた。「弓馬の道」, 「武士(もののふ)の道」と呼ばれる、名を重んじ、恥を知る態度などの武士らしい心構えが育っていった。武芸の訓練方法

としては、例えば、馬の上からの的にした笠懸を射る笠懸, 馬の上から連続した3つの的を射る流鏑馬などがある。

武士の家は、一族の長である惣領が中心となって子や兄弟などをまとめ、団結していた。

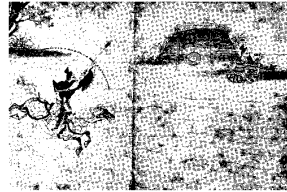
領地は分割相続で、女子にもあたえられたので、女性の地頭も多くいた。

※この単元はたまに出題される。

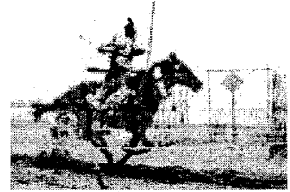
[武士の生活]

- ・弓馬の道
- ・笠懸, 流鏑馬, 犬追物
- ・堀と塀をめぐらせた館
- ・惣領, 分割相続

笠懸



流鏑馬



[解答 37]① 荘園 ② 弓馬の道 ③ 惣領 ④ 分割

[解答 38]① 笠懸 ② 流鏑馬

[解答 39]館のまわりに堀や塀をめぐらせている。

[農業の発達]

[解答 40]二毛作

[解説]

鎌倉時代、農業生産が向上した。これに関して、よく出題されるのは、二毛作の普及である。二毛作は表作として米を作り、裏作として麦を作るものであったが、土地がやせるのをふせぐために、草や木を焼いた灰が肥料として使われた。

[鎌倉時代の農業の発達]

二毛作(米と麦)

牛馬, 肥料(草木灰), 鉄製農具

また、1つの土地を水田として利用した後、水を落として畑として使い、翌年ふたたび水を引き込んで水田にするためには、灌漑用水の整備や田畑の耕作など手間がかかるようになった。牛や馬の利用, 鉄製の農具の普及による農作業の効率化によって、こうしたことが可能になったと考えられる。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「二毛作」である。

[解答 41]① 牛 ② 二毛作

[解答 42]ア, ウ, エ

[解説]

イの備中ぐわは江戸時代である。

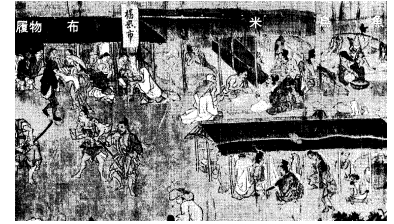
[商工業の発達]

[解答 43]定期市

[解説]

農業生産の向上は、農業以外にたずさわる人々を生み出す余裕を社会に与え、農村には、農具を作る鍛冶屋や染物をあつかう紺屋などの手工業者が住みついた。寺社の門前や交通の便利なところでは、定期市が開かれ、これらの物資が売買されるようになった。

寺社の門前や交通の便利なところでは、定期市



※この単元で特に出題頻度が高いのは「定期市」である。

[解答 44]① 二毛作 ② 定期市

[解答 45]ア

[全般]

[解答 46](1) 下地中分 (2) 弓馬の道(武士(もののふ)の道) (3) 二毛作 (4) 定期市

【】鎌倉時代の文化と宗教

[東大寺南大門・金剛力士像]

[解答 47]金剛力士像

[解説]

鎌倉時代には、武士がはなばなしく活躍し、民衆も力をつけ、貴族の伝統文化のうえに、武士や民衆の、親しみがああり、力強い感じを与える文化が発達した。この時代の代表的な彫刻は金剛力士像で、運慶の作である。写実的で力強いのが特徴である。金剛力士像が置かれている東大寺南大門(現在の奈良市にある)は鎌倉時代に再建された。現在の7階建て

[東大寺南大門・金剛力士像]



東大寺南大門



金剛力士像(運慶)

写実的で力強い

の建物ほどの高さがある大建築で、中国の影響を受けている。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「金剛力士像」である。「東大寺南大門」「運慶」「親しみがああり、力強い感じを与える文化」の出題頻度も高い。

[解答 48](1) 東大寺南大門 (2) 金剛力士像 (3) 運慶

[解答 49](1) 金剛力士像 (2) 運慶 (3) 東大寺南大門 (4) d (5) 写実的で力強い。

[解答 50] 貴族の伝統文化のうえに、武士や民衆の、親しみがあり、力強い感じを与える文化。

[文学]

[解答 51] 平家物語

[解説]

「祇園精舎の鐘の声，諸行無常の響きあり。…」で始まるのは平家物語である。平氏の繁栄から没落までをえがいた平家物語は，琵琶法師によって広められた。

和歌集としては，後鳥羽上皇の命令で藤原定家らが編集した新古今和歌集がある。

随筆としては，兼好法師の徒然草(「つれづれなるままに，日ぐらし硯にむかいて…」)，鶯長明の方丈記(「ゆく河の流れは絶えずして，しかももとの水にあらず。…」)がある。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「平家物語」「新古今和歌集」である。「琵琶法師」「徒然草」もよく出題される。

[文学]

平家物語(琵琶法師)

新古今和歌集

徒然草(兼好法師), 方丈記(鴨長明)

[解答 52](1) 平家物語 (2) 琵琶法師 (3) 新古今和歌集

[解答 53]① 新古今和歌集 ② 方丈記 ③ 徒然草

[解答 54]① 平家物語 ② 方丈記 ③ 徒然草

[鎌倉仏教の特色]

[解答 55]ウ

[解説]

鎌倉時代にあらわれた仏教の各宗派は，分かりやすく，実行しやすかったので，民衆や武士の間に広がっていった。

※この単元で出題頻度が高いのは「分かりやすく，実行しやすかった」である。

[解答 56] 分かりやすく，実行しやすかったから。

[鎌倉仏教の特色]

分かりやすく，実行しやすかった

↓
民衆や武士の間に広がる

[念仏の系統(浄土宗・浄土真宗・時宗)]

[解答 57]① 浄土宗 ② 浄土真宗 ③ 時宗

[解説]

鎌倉時代には，新しい仏教の教えが広まった。その代表的なものは，平安時代の浄土信仰の流れをくむ念仏(南無阿弥陀仏)の系統である。法然は浄土宗を開き，きびしい修行を行わないでも，阿弥陀仏にすがり

[念仏(南無阿弥陀仏)の系統]

浄土宗: 法然 念仏

浄土真宗: 親鸞 念仏, 悪人正機説

時宗: 一遍 踊念仏

「南無阿弥陀仏」と唱えさえすれば極楽浄土に往生できると説いた。
 法然の弟子の親鸞は浄土真宗を開き、「善人ですら往生できる、まして悪人ならなおさらのことだ」という悪人正機説を唱えた。ここでいう「悪人」とは「悩みの多い人」という意味である。慈悲深い阿弥陀仏は、こうした悩める人こそ救おうとしているのだと説いた。

一遍は時宗を開き、布教の方法として右図のような踊念仏を取り入れ、全国を歩きまわって布教した。(かねをたたき、足をふみならして「南無阿弥陀仏」を唱える様子がかがえる)



(踊念仏)

※この単元で出題頻度が高いのは「浄土宗：法然」「浄土真宗：親鸞」「時宗：一遍」である。

[解答 58]① 法然 ② 親鸞 ③ 一遍 ④ 踊念仏

[禅宗・日蓮宗]

[解答 59](1) 日蓮宗 (2) 禅宗

[解説]

鎌倉仏教の第二の系統は、禅宗である。栄西は宋にわたって禅宗を学び、臨済宗を開いた。座禅というきびしい修行を通して自分でさとりを開くことを重視したが、これは武士の気風によく合ったため、武士の間に広がり、幕府の保護を受けた。道元は、ただひたすら座禅に徹せよと説き、山中にこもって曹洞宗を開いた。

第三は、題目(南無妙法蓮華経)の系統である。日蓮は日蓮宗(法華宗)を開き、法華経こそ仏教の根本であると説き、他宗をきびしく批判した。

※この単元で出題頻度が高いのは「禅宗」「臨済宗：栄西」「曹洞宗：道元」「座禅」「日蓮宗：日蓮」である。

[禅宗・日蓮宗]

禅宗 臨済宗：栄西,

曹洞宗：道元

日蓮宗：日蓮 題目

[解答 60]① 日蓮 ② 道元 ③ 栄西

[各宗派全般]

[解答 61]① 法然 ② 親鸞 ③ 一遍 ④ 日蓮 ⑤ 栄西 ⑥ 道元

[解答 62]① 浄土宗 ② 念仏 ③ 一遍 ④ 浄土真宗 ⑤ 栄西 ⑥ 日蓮宗(法華宗)

⑦ 日蓮 ⑧ 題目

[解答 63](1) 踊念仏 (2) 念仏 (3) 題目 (4) 座禅

[全般]

[解答 64](1) 東大寺南大門 (2) 金剛力士像 (3) 運慶 (4) ア (5) 平家物語
(6) 琵琶法師 (7) 新古今和歌集 (8) 兼好法師 (9) 鴨長明 (10)① 時宗, 一遍
② 浄土真宗, 親鸞 ③ 日蓮宗(法華宗), 日蓮 ④ 浄土宗, 法然 ⑤ 禅宗, 栄西と道元
(11) 分かりやすく, 実行しやすかったから。

【】 モンゴルの襲来と鎌倉幕府の滅亡

[モンゴル帝国・元]

[解答 65](1) チンギス・ハン (2) フビライ・ハン

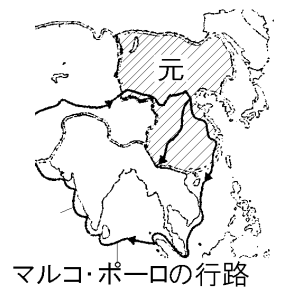
[解説]

13世紀の初め, チンギス・ハンは, モンゴルの部族を統一して国を建設した。その子や孫は, その国を広大なユーラシア大陸の東西にまたがるモンゴル帝国に成長させた。

5代目のフビライ・ハンは, モンゴル帝国のうち, 中国・モンゴルなどの地域を本国として, 1271年に首都を大都

(現在の北京)におき, 国号を元と定めた。さらに, 1279年には宋(南宋)をほろぼし中国全土を支配下に置いた。イタリアの商人マルコ・ポーロはフビライに17年間仕え, 帰国後, その体験をもとに「東方見聞録」を著した。その中で日本のことを「黄金の国ジパング」として紹介した。
※この単元で特に出題頻度が高いのは「フビライ・ハン」である。「チンギス・ハン」「モンゴル帝国」「元」もよく出題される。

[モンゴル帝国・元]
13世紀初 チンギス・ハン
子や孫 : モンゴル帝国
↓
1271年 フビライ・ハン, 元(大都)
マルコ・ポーロ:「東方見聞録」



[解答 66]① チンギス・ハン ② モンゴル ③ フビライ・ハン ④ 元

[解答 67](1) 元, 大都 (2) フビライ・ハン (3) 宋(南宋) (4)① マルコ・ポーロ
② 東方見聞録 ③ 黄金

[元寇：フビライ・ハンと北条時宗]

[解答 68]元寇

[解説]

元のフビライ・ハンは高麗を征服した後, 日本も従うようにと使者を送ってきた。幕府の執権北条時宗は使者を斬って, これを拒絶した。その結果, 1274年(文永の役)と1281年(弘安の役)の2度にわたって日本に攻め込んだ。この2度にわたる元の襲来をあわせて元寇という。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「元寇」「フビライ・ハン」「北条時宗」である。「文永の役」「弘安の役」もしばしば出題される。

[元寇]
フビライ・ハン, 北条時宗
1274年 文永の役
1281年 弘安の役

[解答 69](1) 元寇 (2) 北条時宗 (3) フビライ・ハン

[解答 70](1) 元寇 (2) フビライ・ハン (3) 北条時宗 (4) 文永の役 (5) 弘安の役

[元寇：戦いの様相]

[解答 71]① 集団 ② 火薬

[解説]

フビライ・ハンは朝鮮半島の

高麗を征服した後、日本も従う
ようにと使者を送ってきた。幕



府の執権北条時宗は使者を斬って、これを拒絶した。

1274年、元軍3万が九州の博多湾に上陸し、集団戦法と火薬を使った武器によって幕府軍をなやま

したすえ、内紛や暴風雨のために引き上げた(文永の役)。

さらに、1281年、約14万の大軍で、襲来した。幕府軍は、博多湾沿いに築いた石塁を利用して戦った。元の大軍は上陸できないまま、暴風雨に襲われて大損害を受けて退却した(弘安の役)。(一風灰に(1281)に弘安の役)

※この単元で特に出題頻度が高いのは「集団戦法」「火薬を使った武器」である。「石塁」「高麗」もよく出題される。

[元寇：戦いの様相]

高麗を従えた後、

1274年、博多湾に侵攻(文永の役)

集団戦法と火薬を使った武器

1281年、弘安の役

石塁にはばまれて上陸できず



[解答 72]① 高麗 ② 博多 ③ 集団 ④ 石塁

[解答 73] 集団戦法と火薬を使った武器を使用した。

[解答 74](1) 高麗 (2) 文永の役 (3) ① 博多(博多湾) ② カ (4) B (5) 集団戦法と火薬を使った武器を使用したから。 (6) 石塁 (7) 宋(南宋) (8) 弘安の役 (9) 弘安の役

[御家人の不満]

[解答 75]① 土地 ② 奉公 ③ 御恩

[解説]

国内の戦いに勝ったのであれば、倒した敵の土地を、てがらに
応じて恩賞として分け与えることになる。しかし、元寇の場合、戦いに勝っても土地が増えたわけではなかったので、幕府は御家人に恩賞として土地を与えることができなかった。

当時は出陣のために要する費用はすべて自分持ちであったから、恩賞はそれを補うという意味もあったのである。恩賞を出さない(出せない)というのは、御恩と奉公という関係から見れば、重大な契約違反といってもよいことなのである。御家人が幕府に対して不満をいなくようになったのは当然のことである。

[御家人の不満]

幕府が恩賞として土地を
与えることができなかったから

※この単元で出題頻度が高いのは「幕府が恩賞として土地を与えることができなかったから」である。

[解答 76]幕府が恩賞として土地を与えることができなかったため。

[解答 77]国内の戦いと違って、戦いに勝っても土地が増えたわけではなかったから。

[徳政令]

[解答 78]徳政令(永仁の徳政令)

[解説]

鎌倉時代の中ごろから、鎌倉幕府を支える御家人の生活は苦しくなっていく。その原因は、分割相続である。当時は兄弟で親の財産(土地)を分けて相続する分割相続が行われていた。

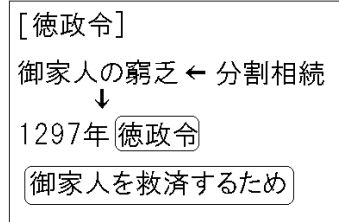
承久の乱など国内の戦いで恩賞として領地を増やすことができる間はよかったが、戦いがなくなって領地の増加がなくなると、何代か分割相続をくりかえしていくうちに領地が細分化

されてしまい、収入が減少し生活が苦しくなっていく。御家人のなかには、高利貸しからの借金が返せず土地を失う者が出てきた。幕府を支える御家人の窮乏を救うため、幕府は1297年に徳政令(永仁の徳政令)を出して、御家人の領地の質入れや売却を禁止し、それまでに売ったり質流れになったりした土地をもとの持ち主である御家人にただで返させることとした。

しかし、これによっても御家人の窮乏を救うことはできず、かえって、それまで金を融通していた高利貸しが金を貸さなくなるなど逆効果になり、幕府の信用を失わせる結果になった。

(皮肉な(1297)結果に徳政令)

※この単元で特に出題頻度が高いのは「徳政令(永仁の徳政令)」である。「御家人を救済するため」もよく出題される。



[解答 79](1) 徳政令(永仁の徳政令) (2) 御家人を救済するため。

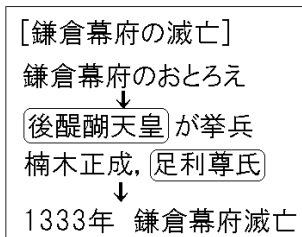
[解答 80]分割相続によって領地が細分化されたため。

[鎌倉幕府の滅亡]

[解答 81]後醍醐天皇

[解説]

1333年に鎌倉幕府は滅亡した。滅亡の原因の第一は、御家人の窮乏と不満である。領地の分割相続によって御家人は次第に窮乏していった。また、元寇のとき恩賞がほとんどもらえなかったことで幕府への不満が広がった(御恩と奉公における重大な契約違反)。幕府は徳政令を出したが、その効果はうすく、かえっ



て御家人の不満と不信をまねく結果に終わった。

このような動揺をおさえるため北条氏は専制政治を強化したが、それはますます御家人の不満をつのらせる結果になった。

滅亡の原因の第二は、鎌倉中期以降の経済発展によって社会が大きく変動し、それにともな
って、新しい武士階層が出てきたことである。農村経済の発達とそれにともなう商業の発達
によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、
莊園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もおおり、悪党とよばれた。悪党はやがて各地に
広がっていき、百姓の抵抗運動とともに、莊園領主や幕府を悩ますようになっていった。
幕府のおとろえをみた後醍醐天皇は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、
楠木正成など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげた。

これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人の足利尊氏は、幕
府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、新田義貞も鎌倉に攻め込んで、
鎌倉幕府をほろぼした。(一味さんざん(1333)鎌倉滅ぶ)

※この単元で出題頻度が高いのは「後醍醐天皇」「足利尊氏」「悪党」である。

[解答 82]① 悪党 ② 後醍醐 ③ 足利尊氏

[解答 83](1) 悪党 (2) 楠木正成 (3) 足利尊氏 (4) 新田義貞 (5) 後醍醐天皇

[全般]

[解答 84](1) チンギス・ハン (2) モンゴル帝国 (3) フビライ・ハン (4) 元
(5) マルコ・ポーロ (6) 元寇 (7) 北条時宗 (8) 集団戦法と火薬を使った武器を使用した
から。 (9) 石塁 (10)① 奉公 ② 土地 (11) 徳政令(永仁の徳政令) (12) 悪党
(13) 後醍醐天皇 (14) 足利尊氏

【】 総合問題

[解答 85]① 源義経 ② 壇ノ浦 ③ 守護 ④ 地頭 ⑤ 源頼朝 ⑥ 鎌倉 ⑦ 征夷大將軍
⑧ 御家人 ⑨ 御恩 ⑩ 奉公 ⑪ 執権 ⑫ 後鳥羽 ⑬ 承久 ⑭ 六波羅探題
⑮ 御成敗式目(貞永式目) ⑯ 二毛作 ⑰ 定期

[解答 86]① チンギス ② モンゴル ③ フビライ ④ 元 ⑤ 北条時宗 ⑥ 集団
⑦ 火薬 ⑧ 石塁 ⑨ 元寇 ⑩ 分割 ⑪ 悪党 ⑫ 徳政(永仁の徳政) ⑬ 後醍醐
⑭ 足利尊氏

[解答 87]① 浄土 ② 法然 ③ 浄土真 ④ 親鸞 ⑤ 時 ⑥ 一遍 ⑦ 日蓮 ⑧ 禅
⑨ 道元 ⑩ 栄西 ⑪ 東大寺南大 ⑫ 金剛力士 ⑬ 運慶 ⑭ 平家物語 ⑮ 琵琶法師
⑯ 兼好法師 ⑰ 鴨長明 ⑱ 新古今

【解答 88】(1)① 源頼朝 ② お (2)① 源義経 ② 壇ノ浦 ③ あ (3)① 守護 ② 地頭
(4) 征夷大將軍 (5)a 執権 b 侍所 c 政所 d 問注所 (6)① 御恩 ② 奉公 ③ 御家人
(7)① 承久 ② 後鳥羽上皇 ③ 北条政子 (8)① 六波羅探題 ② 朝廷を監視するため。
(9)① 御成敗式目(貞永式目) ② 北条泰時 (10)① 二毛 ② 定期市

【解答 89】(1)① チンギス・ハン ② モンゴル帝国 (2) 元寇 (3) フビライ・ハン
(4) 北条時宗 (5) 高麗 (6)① 集団 ② 火薬 (7) 石罌 (8) 幕府が恩賞として土地を与
えることができなかつたため。 (9)① 徳政 ② 御家人を救済するため。 (10) 悪党
(11)① 後醍醐天皇 ② 足利尊氏

【解答 90】(1)① 東大寺 ② 金剛力士 ③ 運慶 ④ 平家物語 ⑤ 琵琶 ⑥ 兼好法師
⑦ 新古今 (2) イ (3)①人物：法然 宗派：浄土宗 ②人物：親鸞 宗派：浄土真宗
③人物：日蓮 宗派：日蓮宗 ④人物：一遍 宗派：時宗 ⑤人物：栄西、道元
宗派：禅宗